

令和7年度高知県文化芸術振興ビジョン評価委員会（第1回）議事概要

1. 日時 令和7年6月11日（水）9:30～11:30
2. 場所 高知県立高知城歴史博物館 1階ホール
3. 参加委員 中平委員長、川鍋委員、新開委員、谷委員、都築委員、西田委員、松本委員
吉澤委員
4. 議題
 - 1 令和6年度第2回評価委員会におけるご意見について
 - 2 令和7年度高知県文化芸術振興ビジョン行動計画について

[意見交換] 議題1

委員	<p>KAPについては、令和6年度より元々文化財団にいた方がアーツカウンシルとなって取り組んでいるとお聞きしている。今後の取組としては、申請書の書き方ではなく、事業をどう自立させていくかが重要になる。他の委員からの指摘にもあったように、国民文化祭に向けて、またその後にどう継続していくかが問題であり、現在の一人で活動していく形では対応できないと考える。県側の回答には、”人数が限られているものの、伴走支援としてある一定取組ができる”と書いてはいるが、検討すべき事項だと思う。</p> <p>項目4の高知城の車両の件に関しては、単に現状の説明であり、検討内容ではないと思う。一般の方が土日が休みであるように、障害のある方も就労支援所で働いており、経済的に生活力のある方は基本的に土日が休み。土日は一年で換算すると1/4に該当し、その1/4の選択肢を奪っているので、再度深く検討していただきたい。高知城の案内DVDも拝見し、確かに体感できる作りのものではあったが、映像を見ることが体験ではない。文化芸術を体験する場合、生で舞台を見るのと映像で見るのと大きく異なるのと同じく、実際に高知城の中に入るか入らないかも異なる。名古屋城の修繕時の問題と同じように、ごく一部の人のためだけに予算をかけることは出来ないと切り捨てる考え方があると感じる。国民文化祭の開催をきっかけとして、年に一回でも実施するなど、検討を継続してほしい。どうすれば多くの方に高知城に来てもらえるか検討してほしい。</p>
事務局	アーツカウンシルは確かに限られた人数で実施しているが、アーツカウンシルだけでなく、文化財団の職員も一緒に伴走支援をしていく。その他の支援も予算上の制約の中でどういったことが出来るか検討していく。
事務局	これまで高知城の管理者と協議を重ねてきた中で、切り捨てるということではなく、安全性を確保するという観点で回答している。高知城公園は公園であり、全ての方が利用出来るということが前提。今後も継続して協議し、この評価委員会で解決策等お伝えしていく。

委員	91歳の母の介護をしており、高知城には自分の仕事が休みの時にしか連れていけない。そうなると土日になってくる。前回はなんとか二ノ丸まで行ったが、道中は砂利のところが多く、非常に苦労した。もちろん車両の件も対応していただきたいが、スロープを取り付ける等の環境整備は簡単に実現可能だと考えるので、是非検討していただきたい。
事務局	二ノ丸までスロープで上がる一方で、砂利の箇所が多いということは把握している。1つの解決策であるが、アスファルト舗装にすることを検討している。お城はある一定の制約がある中での環境整備となり、また、敵に攻められにくい構造になっていることから、利便性のバランスは検討事項であるが、引き続き課内で協議していく。

以上

[意見交換] 議題 2

委員	資料2の4ページの資料のデジタル化については避けられないと思っている。新聞はマイクロフィルムで保存をしており、国立国会図書館で全国の日刊紙が読めるようになっている。ただし、マイクロフィルムの製造が終了し、今後、別の形で保管していかなければならず、業界全体の問題に発展している。身近なところでいうと、「あんぱん」にも登場する月刊誌「月刊高知」の現物が残っているが、崩れそうなぐらいたる劣化しており、デジタル化を進めている。現物で残すことは理想であるが、デジタルでの保存は今後主流になってくる。緊急度が高い物から計画的に優先して進めいかなくてはいけない。
委員	3ページの美術館の贋作問題について、贋作は集客力があるので、逆手にとって「贋作とは」「美術とは」といった視点で展覧会を開くと良いと思っている。美術館はジブリ展では集客があったが、その他の展覧会では苦戦しているように見える。昨年開催された文学館の「ム一展」のように、自主企画で入館者が非常に多かった事例を参考に、贋作も企画展を開催してほしい。県民文化ホールの自主企画は、開催回数が目標を超えているものの、映画が多すぎると感じているため、音楽や他のジャンルのものも開催してほしい。
事務局	贋作に関しては、同じご意見をたくさんの方からいただいている。現在、画廊と交渉中ということもあり、検討させていただく。県民文化ホールに関しては、ご意見を共有し、検討課題とする。

委員	<p>県民文化ホールの映画は、ヨーロッパ企画という県民文化ホールで舞台公演をしている団体が演出・脚本を担当しているものや、「ナショナルシアターライブ」という日本国内で上映する館がとても少ない、世界最先端の舞台公演を直接体験できるよう映像化したものを取り上げている。そのため、単純に「映画」の告知ではなく、どういった主旨で取り上げているかを情報発信することが大切。</p> <p>県民文化ホールは、県立美術館のホールと同じぐらいとがったものを取り上げている。例をあげると、「男肉 du Soleil」は日本国内でも上演が少なく、高知でこれが観られるのかという企画をしている。そういう目線も評価軸に盛り込んでもらいたい。</p> <p>美術館は、展覧会の入場者数自体は少ないかもしれないが、毎年夏に実施しているサマープロジェクトは地元のアーティストや地域の方の協力のもと開催しているものである。また、1月3日に開催した神楽「いざなぎ流」は、399席のホールに対して、1500人が来場したと聞いている。文化振興課と歴史文化財課が分野の垣根を越えて連携しながら、民俗芸能の継続について考えていくと良いのではないか。</p> <p>また、民俗芸能の担い手の継続については、大学生に協力をもらっているが、大学生は県外出身者が多いのではないか。どう継続、定着させていくかを目標に置き取り組むことがいいのではないか。</p>
事務局	<p>県民文化ホールはPRの仕方も含めしっかりと進めていく。</p> <p>美術館と他の館との連携、新しいコラボについても検討していく。</p>
事務局	<p>昨年度、担い手支援に参加した大学生は県外出身者が多く、卒業後についてはまさに課題である。担い手を支援し続けることが目的ではなく、いかに継続・持続して出来るかを出口として捉えている。担い手を募る一方で、今年度新たに、県立大学で全学生の必須科目となっている地域学実習の1つに設定することを予定している。また、昨年の実施を経て、関係団体が増えてきていることから、大学だけではなく、企業にも支援に取り組んでもらうことで継続につなげていく。</p>
委員	<p>美術館の贋作問題について、集客に活用するのは良いが、贋作者側に注目が偏っている。原作者や、高知県立美術館の素晴らしいコレクションに注目がいくような企画展になるよう気を遣っていただきたい。また、委員の意見にもあったが、「アート」といったものがどういうものであるか、ということも考える内容にしてほしい。</p>
委員	<p>18ページの県史編さん事業に、自然部会の設置とあるが、自然とはどこまでの範囲を指しているのか教えていただきたい。</p> <p>よさこい高知文化祭2026は、目玉になる高知らしいイベントが欲しい。市民ミュージカルが好評で大きな反響があったので、こういった市民ミュージカルを支援し、プラシュアップして取り組めると良いと思っている。</p>

事務局	<p>自然部会については、設置を令和8年度から令和20年までの予定としているが、設置期間や内容等については検討中。県民の方から災害史に関しては取り上げて欲しい旨ご要望があったため、災害史については進めていく予定。</p> <p>原則として現物は収集せず、デジタルで収集する手法のため、自然史博物館とは異なる形での知見を県民の方々にご紹介する形になる。</p>
事務局	<p>よさこい高知文化祭 2026 については、県の実行委員会で7つほど大きな新規事業を用意しており、現在、文化事業団を中心新たなものを探討中。市民ミュージカルも含め検討していく。</p>
委員	<p>よさこい高知文化祭 2026 については、新しいものよりも定評があるものを選んで磨き上げをしていくほうが良いと考える。県史編さん事業については、自然部会と自然史博物館と連携して双方がよいものになるようにしてほしい。</p>
委員	<p>今、「あんばん」が放映されていることもあり、「やなせたかし」と付けたら人が集まると思われていると感じる。物部川流域の香美市、香南市、南国市の3市で、地域で文化的な意識を高めていこうという運動をしている方々がいる。香美市は、ギャラリーと香美市美術館の3箇所を結んでアートリンクを作る働きをしている。香南市は絵金蔵があるので、絵金蔵を中心として展開することができる。南国市は、地域交流センターMIARE！という文化施設を作ったものの、周辺との連携の動きはない。文化は地域に根ざしていないと、外から支援事業をしても結局根付かない。地域の小さな動きであっても、核である人を見つけて、だんだん大きくしていくことで、地に足が着いた文化活動になっていくと思う。</p> <p>瀬戸内芸術祭が今夏に開催されるが、高知でも出来たら良いという声はよく聞く。ただ、自分たちがやるといった視点ではなく、誰かがお金を出して指揮してくれたらというスタンス。地元の人が自分事として捉えなければ、だめだとつくづく思っている。</p> <p>中土佐町立美術館や大野見などで活動している方がいらっしゃると聞いており、そういった小さなところを繋げて行く取組をしてほしい。</p>
事務局	<p>やなせさんについては、観光的な視点がより強く出ており、一過性のもので終わってしまうと効果が薄いため、その後の対策が重要であると考えている。文化でいうと、地域に根付いた継続的な取組が重要だと考えており、地域の文化施設や民間も含めて、支援をどういった形で繋げていくか考えなければいけない。</p>
委員	<p>29ページの県立文化施設の教育普及事業の達成率が非常に高く、とても良い傾向だと思う。学芸員やスタッフの皆様に継続してがんばっていただきたいと伝えたい。</p> <p>よさこい高知文化祭 2026 のロゴデザインが非常に良い。</p> <p>よさこい高知文化祭 2026 については、子ども達が参画する目玉事業はあるのか。</p>

	高知城と高知城歴史博物館の連携は、県が率先してやるべきことだと思う。今後どのようにしていくのか。
事務局	よさこい高知文化祭 2026 の子ども達の参加については、県としても文化の継承といった観点から非常に重要だと考えており、開会式に多くの子ども達に参加してもらうよう検討している。また、高校の文化部の生徒達にも参加してもらうことによって、彼らの日頃の活動を知っていただくきっかけにしたいと考えている。障害者芸術文化祭の方では、特別支援学校の子ども達に色々な場面で参加してもらうよう検討しているところ。
事務局	高知城と高知城歴史博物館の連携については、双方でセット券の販売をしている。しかしながら、高知城の入館者は 27 万人、高知城歴史博物館は 5 万人弱であり、そこを課題として捉えている。例えば、彦根城はお城と博物館が密に連携しており、お城に登った人の 3 割が博物館に入館している状況。今後、高知城歴史博物館では、実物を展示していることを全面に PR していきたいと思っている。インバウンドについては、お城の二ノ丸までは登るが懐徳館には入らない、同じく城博も 1 階には入るが 3 階の展示室には行かない方も多く、知恵を絞っていく必要があると考えている。
委員	<p>文化芸術をどのように観光に生かしていくかという観点で端的に 4 点お伝えしたい。1 点目。高知新港で、昨日クルーズ船から 1,000 人降りてこられた、そのほとんどが高知城に行きたいという声があり、認知度は非常に高い。新港にデスクを出して、城博のセット券の販売をすれば、入館者増に向けた取組に繋がっていくと思う。</p> <p>2 点目は 26 ページの四国遍路の世界遺産について。世界遺産に登録されれば、国内及び世界的にも観光インパクトは非常に高いと思う。時間はかかるかもしれないが、強化をしていってほしい。</p> <p>3 点目は、「かつお料理」というすばらしい食文化をもっと PR して、その価値を最大化させた方が良いと思う。私は福岡出身で長く九州エリアで団体旅行営業をしていた。当時の肌感覚で言えば、高知の皆さんが高いほど高知といえば鰯ということが知られていないという記憶が残っている。もう十分認知されているという感覚でなく、もっと知ってもらう必要があるという意識で施策を打つことが大事だと考える。それが誘客に繋がると思う。</p> <p>4 点目はインバウンド。今、観光においては、インバウンドをどう推進していくかがキーワードになっている。48 ページのまんが王国土佐の推進の③高知まんが BASE の取組予定として、クルーズ船の観光客向けイベントの実施と書かれているが、まんがやアニメは海外の方は興味関心が非常に高いと聞いている。まんが BASE での PR や、まんがやアニメを体感するようなツアーをしっかりと作って、クル</p>

	ーズ船の中で販売することが出来れば、インバウンドの観光客がたくさん来ると思う。是非、クルーズ船をターゲットにした施策に取り組んでいただきたい。
事務局	高知新港におけるインバウンドの対応については、城博と高知城の管理者と相談の上、検討する。四国遍路に関しては10年以上取り組んでおり、文化庁からは、1点目「資産をどのように保護していくか」、2点目「世界資産という価値を世界のどういった人にPR、理解してもらうのか」、3点目は「地域の熱意」について常に聞かれている。取組に長い年月がかかっているが、4県で連携していく。
事務局	鰐のPRについては、観光の側面が強いが、文化の観点で食文化も含めて文化広報誌での紹介等に取り組んでいく。まんがBASEに関しては、高知城に近いところにあり、高知城に多くの方がおいでになるタイミングで、高知のまんが文化を知っていただくためのイベントを考えていく。
委員	<p>37ページの障害者文化芸術活動支援事業に関して、障害のある方が文化芸術活動を鑑賞するために情報保障を行っていくと書かれているが、アクセスするためには情報保障が必要であるものの、文化芸術鑑賞は作品を楽しむものであり、そこには、”いかに想像して感情を解放して楽しむのか”といったことが必要。情報保障と鑑賞サポートは違う。手話通訳や字幕、音声ガイドは情報を伝えるためには必要であるが、障害のある方が作品を鑑賞する環境を作るためにはどのような鑑賞サポートが必要かを考えてほしい。そもそも鑑賞サポートとはどういったものなのか、アクセシビリティとは違うということをまず勉強するといいのではないかと思う。色々な方が講義をしているので、一度受講してから取り組みを検討していただきたい。</p> <p>29ページの教育普及事業に関して、学芸員の対応件数に限りがあると書かれているが、高知城歴史博物館の達成率は400%である。せっかく地域の学芸員を養成しているのであれば、その方達に渡していく仕組みを構築出来れば、施設の仕組みに関わっていくこととなり、施設のサポート側の人材育成にも繋がるのではないか。</p> <p>市町村との連携については、高知国際版画トリエンナーレ展についても、県立美術館にも良いコレクションがあるので、香美市美術館と連携したコレクションの紹介や、昨年、高知城歴史博物館で特集をしていた修復紙としての土佐和紙紹介等で連携していくことができるよう思う。</p>

事務局	障害者の方の情報保障と鑑賞サポートについては勉強し、それぞれどういった形で取り組むべきなのか検討していく。教育普及事業に関しては、KPIを大きく上回っている館は、目標値の立て方について見直しが必要だと感じている。本来は館に来ていただくことが有り難いことであるが、マンパワー対策として地域学芸員の活用も視野にいれていく。高知国際版画トリエンナーレ展に関しては、各館の連携を柔軟に考えていく。
委員	34ページのオールドパワー文化展について、出展者や入場者数が伸び悩んでいるということで、舞台部門の併設を提案したい。ホールを2日間程度開放し、音楽活動や演劇、舞踊等の発表の場とすれば、にぎやかになって入場者数も伸びると思う。是非検討していただきたい。
委員	今朝の高知新聞に掲載された高知県の知事公邸について。広島県訪問時に、広島県にある国際平和記念聖堂が村野藤吾さんの設計であり、同じく高知県の知事公邸も村野さんの設計だと知った。広島の聖堂は国指定の重要文化財であり、日本建築の高知県知事公邸も同じく文化財級だと思われる。維持管理で費用はかかるてくると思うが、保存や保管、指定に向けて検討していただきたい。
事務局	ご意見は担当課と共有する。

以上